

1年間の主な行事日程

2022年	4月	4日	第58回入学式
		11日	前期授業開始
		13日	授業公開講座「簿記原理I・II」(全30回)
	5月	14日	オープンキャンパス(第1回)
	6月	18日	前期公開講座「歌で学ぶ英語の発音」
		9日	前期公開講座「暮らしに役立つ数字の話」
	7月	29日	前期授業終了
		30日	オープンキャンパス(第2回)
		8月	1日
	8月	8日	夏季休業開始(～9/25)
		9月	19日
	9月	25日	夏季休業終了
26日		後期授業開始	
10月		1日	オープンキャンパス(第3回)
10月	8日	後期公開講座「間宮林蔵が見た世界」	
	16日	大学祭	
	11月	5日	後期公開講座「耳と目と脳で聴く」
11月	19日	学校推薦型選抜	
	12月	7日	本学主催業界研究会(函館)
12月	9日	本学主催業界研究会(函館)	
	26日	冬季休業開始(～1/10)	
	2023年	1月	10日
11日			後期授業再開
27日			後期授業終了
30日			後期試験・補講開始(～2/3)
31日			卒業論文提出締切
2月	4日	一般選抜<A日程>、社会人選抜・シニア選抜、編入学者選抜	
	7日	春休み集中就活対策講座・模擬面接研修会(～2/8)	
	27日	春季休業開始(～3/31)	
3月	4日	一般選抜<B日程>	
	16日	第55回卒業式	
	25日	オープンキャンパス(第4回)	
	27日	新2・3・4年次オリエンテーション	
	31日	春季休業終了	



函館大学 図書館

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181
URL <https://webopac.hakodate-u.ac.jp>



ぽるとさびえバックナンバー 函館大学 学術情報リポジトリ・函館大学広報誌
URL <https://hakodate-u.repo.nii.ac.jp>

※マスクを着用していない写真につきましては、感染対策を徹底して撮影を行いました。

ぽるとさびえ

2022.August Vol.35

函館大学広報誌 Vol.35 発行／函館大学図書館



2022.AUGUST

vol.35

PORT SAPIE

ぽるとさびえ

HAKODATE UNIVERSITY
CAMPUS PRESS

特集


「函館大学のPBL教育」

就職部 高い就職率を実現する函館大学のキャリア支援

教育の特徴・オープンキャンパス

キャンパスレポート・クラブトピックスなど



 函館大学

グローバルな考え方を
地域で涵養しよう



学 長 野 又 淳 司

都市に人が集中して住めるようになったのは、18～19世紀の産業革命以降と言われています。産業革命というと蒸気機関を連想する人が多いと思いますが、本質的には石炭によるエネルギー革命です。石炭以前は木材・木炭が必要なので、森の近くに分散して住まざるを得ませんでした。国際社会はカーボンニュートラルに向けた合意を形成しつつあります。日本も2050年カーボンニュートラルを宣言しています。今から28年後、今の学生が50歳前後のころには、大都市一極集中は過去のものとなっているかもしれません。私は学長に就任して以来、渡島・松山の町長を訪問し、地域の課題や取り組みを勉強させてもらっています。それぞれの自治体が、早い段階から再生可能エネルギーの推進に取り組んでいましたが、最近では大規模な事業も計画され始めています。これまでは最後尾を走っていた地方の小さな町が、再生可能エネルギー生産地として最先端を走っているという印象です。せたな町の高橋町長から「うちの町で、BMWがCMの撮影をしていた」と聞いたのは昨年のことだったと思います。YouTubeで検索してみると、BMW iXという高級車のCMがそれでした。同町では、Invenergy社による19万キロワット級という国内最大級の風力発電建設計画も発表されていますし、さらに洋上風力発電の候補

地ともなっています。一昔前、北海道への海外からの投資はニセコに集まっていましたが、今は再生エネルギーに注目が集まっています。20年、30年という時間単位では、これまでの常識が塗り替えられ、社会は大きく変わっていきます。若い学生たちが時代の変化に適応できるよう、大学での教育を通して、視野を広げる経験を提供し、考える力や努力する姿勢を身につけてもらいたいと思います。函館大学の学生も、函館にとどまらず、地方でプロジェクト活動をしています。八雲町では、スポーツイベント誘致、廃校の利活用、サブスクリプションでの商品販売などに取り組んでいます。最初のきっかけは授業や先生の指導によることが多いのですが、そこから先は、学生たちが自分の足で(車で)進んでいけるのも、地域での活動の良いところ。広大な北海道には自治体が179あり、面積を合計すると22の都府県が入るほどです。学生らしい主体性を発揮して、広い北海道で、広く地域を学んでほしいと思います。それが、多様性の理解につながり、環境問題や国家間の紛争といった地球規模の難問と向き合う力になるものと信じています。

CONTENTS

- 学長メッセージ(学長 野又 淳司)..... 1
- 特集「函館大学のPBL教育」..... 3
- 教育の特徴、オープンキャンパス..... 9
- 就職部..... 11
- がんばる社会人一年生・インターンシップ体験..... 12
- 出身校紹介 北から南から..... 13
- 新任教職員紹介..... 16

- KANDAI ing CLUB TOPICS
 - 硬式野球部..... 17
 - 軟式庭球部..... 18
 - 軽音部..... 18
- CAMPUS REPORT
 - 世界へ羽ばたく!国際交流..... 19
 - 函館大学地域連携センター&2022公開講座..... 21
 - 令和3年度 学校法人野又学園 決算書..... 21
- 授業アラカルト
 - 「認知言語学」 阿武 尚人 准教授..... 22

函館大学のPBL教育

従来型の講義を中心とした授業ではなく、学生自らが課題を発見し、解決するプロセスを重視したPBL (Problem-Based Learning/Project-Based Learning) 教育。函館大学で行われているPBL教育の特徴について紹介するとともに、その内容について担当教職員にお話を伺いました。



プロジェクト型学習と問題／課題解決型学習

PBLとはProject-Based Learningという「プロジェクト型学習」、もしくはProblem-Based Learningという「問題／課題解決型学習」のことです。大まかに言えば前者のプロジェクト型学習とは、教員などが課題を与え、その課題に対して学生が主体的に取り組んでいくというものです。

一方、後者の問題／課題解決型学習は、学生たちが自ら課題を発見することを含めた、発見・解決型の学習のことです。本学ではアクティブ・ラーニング(主体的・能動的な学び)として、このPBL教育をいち早く取り入れ、市内8高等教育機関の学生が研究成果を発表するHAKODATEアカデミックリンクや、全道・全国規模の多くの研究発表大会で優れた成績を収めるなどの成果をあげています。

教務部長・図書館長
寺田 隆至 教授

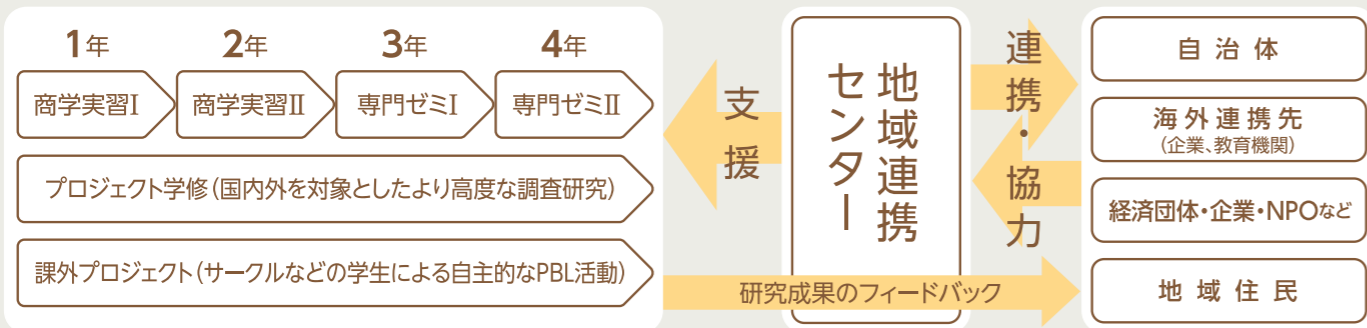


全国的に見ても先駆的に行ってきたPBL教育

本学では、アクティブ・ラーニングという言葉が一般化する前の2001年に実施した教育改革で、このアクティブ・ラーニングを導入しました。その年に4年一貫の専攻塾制度を開始し、演習や実習などのPBL教育の授業形態を採用したのです。2010年、全国の大学のアクティブ・ラーニングの進展度についての河合塾の調査結果で、全国151大学中の上位10学部のひとつに本学が挙げられたのは、本学のPBL教育の先駆性と水準の高さを客観的に示したと言えるでしょう。

そして同年には専攻塾制度を改め、1・2年生の新カリキュラムとして商学実習を導入しました。商学実習は、商学が社会に役立つ学問であることを学生に実感してもらうため、地域課題にリサーチワーク、フィールドワーク、グループワークによって取り組むという特徴を持った科目です。商学は「実学志向」の学問であり、そのバックボーンがあって、実学志向を実践しているのが本学のPBL教育なのです。

函館大学のPBL教育概念図



多様性のある函館大学のPBL教育

本学のPBL教育の基本となるのは1・2年生の「商学実習I・II」、3・4年生の「専門ゼミナールI・II」なのですが、ほかにも授業外の自主的なPBL活動としてのプロジェクト学修も行っているのが特徴です。例えば函館スイーツの販路拡大を目指して国内および海外で調査・研究を行った「函館スイーツ研究」、台湾の大学と共同調査を行って修学旅行のプランを作成したプロジェクト研究、さらにはサークルによるPBL活動も盛んです。このような活動を円滑に行えるよう、大学が活動費を支援しています。

また、2015年には学内に専従の職員を配置した地域連携センターを設置し、活動を手厚くバックアップしています。同年には函館大学と函館市の相互協力協定を締結し、地域のさまざまな課題に取り組む活動を活発に行っています。



いくという方向性を考えています。ここ2年ほどはコロナ禍もあり、海外での活動は滞っているところもありますが、今後も引き続き海外に目を向けた活動を行っていきたくと考えています。

国際性ととも、道南地域に広がるテーマの研究も

それと同時に、近年では函館市のほか、道南地域に広がるテーマの研究にも学生たちが積極的に取り組んでいくようになってきました。本学の多様なPBL教育を通して、学生たちには生涯に渡って学び続ける姿勢を身につけてほしいと願っています。地域の中心的な存在、さらには世界で活躍する人材教育の大きな柱のひとつとして、本学ではPBL教育にしっかりと取り組んでいきます。



国際性豊かな研究テーマを実践

学生がさまざまな研究に取り組める環境の中で、国際的視野を持って行われる研究テーマが多いことも大きな特徴です。本学では英語教育にも力を入れ、国際性も大事にした教育を行っています。そのため、先に述べた台湾の大学との共同研究をはじめ、特にアジア地域を重視した、国際的な視野を持った研究に取り組んで

HAKODATEアカデミックリンクでの入賞実績

年	賞	発表テーマ	受賞者名
2011	ラッキーピエロ優秀賞	「萌×函館による商品開発とまちおこし」	IT専攻塾チーム
2012	クリエイティブネットワーク優秀賞	「エゾシカ肉の普及について」	チームエゾシカカレープロジェクト
2014	ブース部門奨励賞	「津軽弁は、何故、函館で通じたり、通じなかつたりするのか?—函館分府から探る地域間交流史—」	商学実習II チームHBR
2016	ブース部門優秀賞	「湯の川温泉街・商店街の活性化～湯の川温泉夜市の企画と実施～」	津金ゼミ
2017	審査員特別賞	「こんにちは、ムスリム!」	商学実習I 藤原クラス
2018	審査員特別賞	「函館の観光、冬の賑わいを夜歩きで増やす!」	チーム夜歩き湯の川
2020	審査員特別賞	「Hakodate Project～創業支援でコロナ禍脱出～」	函プロクリエイターズ

全道・全国規模の研究発表大会での入賞実績

年	大会名・賞	発表テーマ	受賞者名
2005	U-22プログラミングコンテスト・優秀賞	「パス参る。」(GPS携帯電話を活用したバス発着時刻提供プログラム)	IT専攻塾チーム
2016	海洋観光大学東日本キャンパス教育旅行研究大会2016・最優秀賞	「海はミチルベー縄文文化を通して青函と人のつながり・思い出を作ろう」	函館大学シーピーポー、ビジネス企画研究室
2017	はこだて地方創生研究会主催「はこだて学生政策アイデアコンテスト」・最優秀グランプリ	「台湾との教育旅行による地域活性化」	サウズドラゴン、ビジネス企画研究室
2018	第14回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～・優秀賞	「未来の自分に投資しよう～Iiifで金融学習・資産運用～」	高橋綾花・浜田友莉亜
2019	北海道エアシステム主催「未来につなぐ“HAC若者の翼”プロジェクト」・特別賞	「アイヌを追いかけて～私のピリカ～」	小川沙也加、佐々木美帆、田中聡恵、ビジネス企画研究室
2020	北海道学生研究会SCAN第11回合同研究発表会・特別賞	「西部地区活性化を目的としたEV車を利用した新交通の提案」	佐藤ゼミ
2021	北海道学生研究会SCAN第12回合同研究発表会・最優秀賞	「ワーケーションと地域活性化のリテンションモデルの構築～八雲まるごとササノの提案～」	商学実習八雲プロジェクト

PBLでの
研究テーマ・
プロジェクト名

函館に通う学生の 幸福度調査



西村 淳教授

PBLでの
研究テーマ・
プロジェクト名

食のユニバーサル化



藤原 凜准教授

実際に起きている 社会問題と 向き合う

大学での座学は、ほとんどが問題を解決するという授業ではありません。問題解決を目的とし、しかも実際に社会で起こっている問題に取り組むところがPBLの特徴です。社会問題について、学生たちにできることには限界があるかもしれませんが、「これならできるかもしれない」と考えられることに加え、「自分たちでもこれなら解決できるんだ」と思えることがPBLのメリットと言えるでしょう。



魅力度とは対照的に 低い函館市民の 幸福度

私が担当してきたPBLでの研究テーマは「函館に通う学生の幸福度調査」でした。函館は魅力度ではナンバーワンになったりしていますが、一方で市民の幸福度は下位であるという不思議さが取り組みを決めたきっかけのひとつです。また、経済学では“効用”というもので幸福度を扱い、伝統的な経済学では効用は計測不能であるという発想があります。ところが経済学が発展を遂げ、行動経済学が現れると、従来の経済学では測れないものが測れるように変わったことも、もうひとつの大きな理由でした。

経済学から見た 幸福度は 面白い題材

経済学での経済成長は、これまで一般的にはGDPの成長率で測られてきましたが、GDPが増えて幸福度が高まっているかと言えば、実際にはそうでもなく、そのため今は、国は幸福度で測ろうと考えています。函館市は人口減少が激しく、しかも人口流出で大きな割合を占めているのが大学生です。そこで「函館に通う学生の幸福度調査」を実施。学生たちは、函館に住む大学生、短大生、高専の学生、さらには北大の大学院生を対象にし、計700名ほどからアンケートを集め、データ化、分析まで行ったこの研究は、キャンパスコンソーシアム函館でパネル展示という形での発表が着地点でした。

考えるトレーニングは 実践的な学び

私自身は筑波大学の社会学出身であり、社会問題をシステム工学的に解決していく社会学の学びとは、まさにPBLなのです。教員としての私にとっては、比較的取り組みやすい教育科目であり、どうしたら学生たちが問題意識を持てるのかを意識し、学生が考えやすいようにするための材料となるものを提供していくことに気を遣っています。また、定めた目標に向かう過程で脱線しないように導いていくことも教員の大きな役割だと考えています。学生たちにとって、PBLは考える大事なトレーニングになっていると思います。グラフの見方然り、それをどう分析するかが求められます。社会的な問題に対し、自分とは関係ないと思っている人も多いかと思いますが、高校生や大学生などの皆さんが変えていかなければ変わりません。ですから、PBLを通して自分たちの問題として考えるようになってもらいたいと思います。



学生に 自信を持たせる 教育手法

PBLでは企業さんや各種団体さんなど、いろいろな方々と関わりながら「仕事」をすることになります。活動が評価され、かつ取材を受けて新聞に掲載されたり、最終的に成果物が完成して周りから「すごいね」と言ってもらえると、学生たちに自信がってきます。それまで「私なんか」を口癖にしていた学生が「私でも」にマインドが変わっていくのです。さらに、社会の厳しさを肌で感じながら学べる点もメリットだと考えています。やりたいことにトライし、成果が出て、面白くなり、次のステージへと進む。そんな学生たちを見てると、「芽が出てきたな」と嬉しくなってきます。



ムスリム観光客や ヴィーガンの 普及・啓蒙をテーマに

私がこれまで担当してきたPBLは、ムスリム観光客の受け入れ体制の整備や、その一環としてムスリムでも食べられるヴィーガンの普及・啓蒙をテーマにしてきました。初期は函館市内に礼拝所を開設したり、ムスリム・ベジタリアン向けの道南ガイドマップを制作したりと成果を残しました。観光客が途絶えた2年程前からは、各種事業者さんに協力していただきながら、市民の健康増進とインバウンド再開に向けた準備を兼ねて、ヴィーガン・ベジタリアンの啓蒙活動を進めています。そしてこれまでの活動が注目を受け、今年に入って展開が広がりました。「食のユニバーサル化」を大きな企画テーマに、活動を

展開している北海道観光振興機構さんから、「大学生のアイデアをうまく活用できないだろうか」と、タイアップのオファーをいただいたのです。



食のユニバーサル化へ 大きく広げた可能性

食のユニバーサル対応の業務については、産学官が連携し、産は飲食・宿泊事業者の民間企業有志、学は函館大学・函館短期大学、官は北海道・北海道観光振興機構が協力して事業に取り組んでいます。そうした中、函館大学では今年の大学祭で「ベジフェス」を開催することになりました。学生たちは地域全体でのヴィーガン・ベジタリアンの機運の醸成・啓蒙、並びに飲食店さんへの貢献を目的に企画を進めているところです。大学祭での「ベジフェス」は学生たちの発案。普及効果を高めるための方法を思案するべく、学生たちは東京で行われた類似イベントを視察するなど精力的に動きました。こうして自ら考えて動ける境地に達すると、後は学生が関係者の方々と一緒に盛り上がり進んでいきます。私の役目は外へ出る学生を育てること、そこからの成長は自分次第なのです。

大学で社会に近い 環境をつくる

PBLでは学生たちが外部と関わりながら仕事をし、成果物など目に見えるものを必ず残すことを意識しています。また、なるべく広報をして新聞などに載せてもらう、これは学生たちの就活にも役立つはずですから。社会の荒波にもまれると、学生たちもタフになっていきますので、限りなく社会に近い環境をつくってあげられるように、教員一同頑張っています。

PBLでの
研究テーマ・
プロジェクト名

地域創造プロジェクト

佐藤 浩史 専任講師

PBLを通して “自立”と“自律”を 芽生えさせる

PBLを実践していく上で、教員としての私が目的として大切にしていることは、学生たちの“ジリツ”です。このジリツとは『自立』と『自律』の2種類があり、どちらも社会へ出る前の学生たちにとって必要なもの。学校の外へ出て、社会の中で課題解決に関わることによって自立に気づき、その自立への気づきは自律へつながっていくのです。

PBLはジリツを身につけてもらうために有効な教育です。私個人としてはPBLありきということではなく、自立・自律してほしいという願いを持って、学外でのプロジェクトを進めています。そして本学は商学部です。地域の課題解決の方法として、社会的課題をビジネスで解決していくことをテーマとし、PBLに取り組んでいます。



リアルな活動の中で 達成感を得る

函館市が抱える課題の案件は、ほかの先生方も取り組んでいますので、私はあえて「人手が足りない」「どうしたら良いかわからない」、またはサポートがあったほうが良いというところに目を向け、函館周辺の道南地域の方々とコミュニケーションをとりながら地域課題に取り組んでいます。こちらが「これをやりたい」ではなく、ニーズをしっかりと聞き、それに沿ってプロジェクトを考え、それぞれの地域、課題に学生たちが寄り添いながら、一緒に解決を目指して進めていくという手法です。

また、教員がマニュアルを用意したのでは学生のジリツには結びつきませんし、指示待ちの受け身になってしまいます。留意点などのガイドは行いますが、リアルな活動の中で、自分で自分の中に落とし込んでいくことにより、喜びや達成感を味わってほしいと思っています。

ビジネスを 成り立たせた 地域創造

これまで、PBLでは環境問題の海洋プラスチックに関する課題、食品ロスに関する課題など、地域が抱える課題に取り組んできました。昨年は道南のまちでスポーツツーリズムイベント開催を実現。簡単に実現までと言っても、実際に実現させるのはとても大変なことです。企画や安全面の配慮など、学生たちは実行委員に入り、開催までのプロセスをゼロから体験しました。

今年春には「地域の小規模事業者さんを応援しよう」とホームページを作成し、通販にワーケーションをプラスしたサブスクリプション事業をスタートさせました。なかなか販売には結びついていませんが、学生たちはうまくいかないことから学ぶわけです。



外へ出るほどに感じる 学生たちの成長

外と関わる機会を重ねるほどに学生たちの成長を感じています。自ら進んで取り組み、それが評価される機会に達すれば、掛け算となってやる気が加速していく姿を見られるのは、教員として最高の時間です。学生たちにはこれからも「やるならやる」と言い続けていきたいと思っています。

教員・学生の PBLの活動をサポート



地域連携コーディネーター 高橋 和将さん



地域課題を解決し、 地域を活性化するピ研

ピ研では夜の湯の川地区の賑わい創出をテーマとした「湯の川温泉夜市」や、学内フリーペーパー【パーヘンキロ：フィンランド語で主人公】の制作、そして道南のエゾシカによる獣害被害に関する調査研究では、野生動物のワナの免許の取得、エゾシカ肉を使った調理を実践したり、それらの結果から、エゾシカ肉を使ったレシピのコンテストへの応募など、これまでにさまざまな企画を実行してきました。

今年は「高校生アイデア王座決定戦」という企画を進めており、高校生へのPBL教育の提供によって、地域のことを考えるきっかけづくりという目的に加え、本学の学生にイベントの企画・運営の大変さを学んでほしいと思っています。高校の先生方からは、「生徒のモチベーション向上の支援になった」という声もいただき、部員たちは成功に向けて頑張っています。

大学と地域を結ぶ コーディネート

私の仕事は大きく分けて2つ。ひとつは学生たちの研究・調査のサポートという教育支援です。その中にPBL教育におけるサポートがあります。もうひとつは、大学と地域をつなぐための地域連携センターのコーディネーターとしての仕事です。学生の活動を学内に留まらず、地域に出ることによって得る学びをもたらす、さらには地域にとっても学びとなり、みんなが何かを得られる成果とゴールを設計するのが、私の重要な役目です。そのため、「より多面的なPBLの効果が出る」ところを見極め、教員や学生に提案を行っています。

PBLにプラスの オプションがある函館大学

本学では商学実習などの科目を設置していますが、PBLは単科目科目ではありません。課外プロジェクトのほか、サークル活動でも実践しています。体系立てたアクティブ・ラーニングがありつつ、プラスのオプションとして、PBLをしっかりと軸に置いたアクティブ・ラーニングを別に行っているのが強みです。そのサークル活動のひとつが「ビジネス企画研究室(以下、ピ研)」です。ピ研には現在50人ほどの部員が在籍し、皆、主体的に活動しています。自分たちでテーマを設定し、自主的に研究を行っています。活動をチームで行う中では、意見の対立や、意識の統一、方向を修正する機会も多々ありますが、部員たちは悩むことも楽しみながらゴールを目指して進んでいます。学生たちの「全力で取り組む姿勢」を尊重し、それを後押しする場所がピ研です。

振り返りを次に生かす、 その繰り返しが大切

失敗することもまた大切な経験です。PBLは、振り返りを次に生かすということを循環しながら学習する方法。立ち止まらずに繰り返すことが大事であり、うまくいかなかったというのは、思い通りにならなかったという結果でしかなく、思い描いた結果になるようチャレンジを続けること。商学的な視点と知識をこれらの能力と組み合わせて、これからの社会で役立ててほしいと思います。



教育の特徴

質の高い教育と 就職に強い大学

入試部長
若松裕之教授



本学の最大の長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアデザインの実現をさまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

本学は、早くからアクティブラーニングという能動的な学修を促す手法を採用し、教育界・産業界から注目されてまいりました(大手進学予備校河合塾による調査。『日本経済新聞』2011/2/21)。この手法による「商学実習I・II」(1・2年次)などでは、学生による地域研究をはじめ、企業とのコラボによる商品や観光プランの開発などが、新聞やテレビニュースなどで数多く取り上げられております。

このほか、本学のビジネス企画研究室をはじめとした学生の研究グループが、青函を題材とした教育旅行プランで、海洋観光大学東日本教育旅行研究大会(同実行委員会、日本財団主催。2016/9/10)において最優秀賞を獲得したのをはじめ、はこだて学生政策アイデア・コンテスト(はこだて地方創生研究会主催。2017/11/23)で最優秀賞、日銀グランプリ(日本銀行主催。2018/11/23)で優秀賞を受賞するなど、本学のアクティブラーニングの質の高さを示すものとなっています。こうした活動は、コロナウイルスの影響下で制約を受けてきましたが、今後も社会の状況を見ながら積極的に進めていく予定です。

また、本学はさまざまな形で海外留学・海外研修の機会を拡充してまいりました。ニューカッスル大学(オーストラリア)、ハワイ・バシフィック大学のほか、南開大学浜海学院(中国)、長栄大学(台湾)との研究・教育交流を実施し、海外でのマーケティング研修、短期語学研修なども実施してまいりました。残念ながら、こちらもコロナウイルスにより中断しておりますが、状況が改善し次第、積極的に支援していく予定です。本学は、従来から就職に強い大学という評価をいただいておりますが、『週刊ダイヤモンド』(2011/12/1)の特集号「就職に強い大学ランキング」で、道内限定で第3位、道内私大ではトップ(全国総合98位)となり、本学の就職実績の高さはお墨付きをいただくことになりました。本学の就職の強さは、就職者+進学者/卒業生数、という実就職率(96.7%)の高さに表れていると思っております。

このように、本学のすぐれた教育システムと高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

第14回「日銀グランプリ」プレゼン



OPEN CAMPUS 2022

オープンキャンパス 学生が案内するオープンキャンパス



今年度は、本学主催のオープンキャンパスを4回開催します。

オープンキャンパスでは、本学の教育内容や入学者選抜、就職支援、学費・奨学金の説明、ミニ講義、キャンパス見学、無料ランチ体験があり、本学の情報と雰囲気を知ることができます。

当日は、在学生がキャンパススタッフとして、参加者の皆様をご案内しますので、本学の生の情報を気軽に聞くことができます。また、当日同伴されました保護者の皆様には、参加生徒とは別に4年間の学生生活のイメージ、学費などについて詳しく説明をいたします。個別相談にも対応しておりますので、お気軽にお声がけください。

オープンキャンパスなどに都合がつかない方には、放課後入試相談会・Web個別相談も受け付けていますので、日時などの詳細は本学HPをご覧ください。本学入試課まで電話でお尋ねください。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の目でたしかめて、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート体制のもと、学修・研究、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。



12:45~ 概要説明

参加者の皆さんに講義に集まっていただき、本学の担当者から入試・学科・コース・宿舍・通学バス等の説明をしていきます。

14:00~ キャンパスツアー

在学生のキャンパススタッフが本学内の各施設・設備の説明を行いながら、皆さんをご案内していきます。

14:40~ ミニ講義

本学での4年間の学びをイメージできるよう、商学、英語、教職など、実際に行われている講義の短縮版を体験していただけます。

15:00~ 学生交流

リラックスしながら、在学生との交流タイムを設けています。気になることや疑問など、何でも気軽に聞くことができます。また、保護者説明会も同時開催しています。

在学生がキャンパススタッフとして皆さんを案内していく本学のオープンキャンパス。在学生との交流の中でさまざまな話が聞けたり、実際の講義を体験できたり、入学後の自分がイメージできるプログラムを用意しています。そこで、当日はどのような流れで本学のことを知ることができるのか、プログラムの内容をご紹介します。



オープンキャンパスは
函大生の自分が
イメージできる



【オープンキャンパス2022 開催日時】
2022年5月14日(土)・7月30日(土)・10月1日(土)
2023年3月25日(土) 各日12:45~16:00

無料ランチ
11:50~12:30



※当日は函館駅前・函館大学間で無料送迎バスもご利用いただけます。交通費補助制度あり!



お問い合わせ先 / ☎0120-00-1172
メールでのお問い合わせは
www.hakodate-u.ac.jp/contact/



函館大学生
生活ドキュメンタリー





高い就職率を実現する 函館大学のキャリア支援

新型コロナウイルス感染拡大による経済への打撃から、就職活動への影響が懸念された2021年度でしたが、若手人口減による人手不足もあり、企業の採用意欲はここ数年と変わらず高い水準を保っていたようです。しかしその一方で、「良い人材だけを採用したい」という気運はさらに高まり、採用活動の早期化・短期化・厳選化が促進されています。加えて、オンライン化が進むことによって、学生にはこれまで以上にマルチな対応力と自己表現力が求められています。

このような状況下において、本学の2021年度の就職実績は96.7%という例年通りの高い数字を達成することができました。業界・業種は多岐にわたっており、全国各地で多くの卒業生が活躍しております。

採用の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。本学ではその傾向に対応し、学生を「社会に必要とされる人材」に育てるべく、就職に向けたさまざまなキャリア支援を展開しております。

その1つが、担任・就職委員会・キャリア開発課が連携して実施している「キャリアデザインシート」です。1年次から毎年担

任との個別面談を行い、常に目的をもった大学生活を送るよう助言・指導することで、学生が自らのキャリアデザインを早期から描くことができ、就職活動がスタートする3年次には「自己PR」や「学生時代の取り組み」など、自分を語る材料が自ずと身についているような、全学的な支援を行っております。

また、学生がさまざまな業界に目を向け、商学部ならではの幅広い分野で活躍できるよう、業界の第一線で活躍する社会人を講師に招いての「キャリア講演会」や、約50社の人事担当者を学内に招き、事業内容などについて直接話を伺う「業界研究会」を開催するなど、業界知識を広げる取り組みも行っています。

就職活動への本格的な準備が始まる3年次には、年間通して「キャリアガイダンス」を実施し、自己分析や企業研究、履歴書・エントリーシートの書き方、筆記試験対策、模擬面接など、一通りの就活ノウハウ指導を行っているほか、「キャリア開発課」に専属のスタッフが常駐し、随時就職に関する個別相談や情報提供、履歴書添削、面接練習など、小規模大学の強みを生かした親身な助言・指導を行っております。

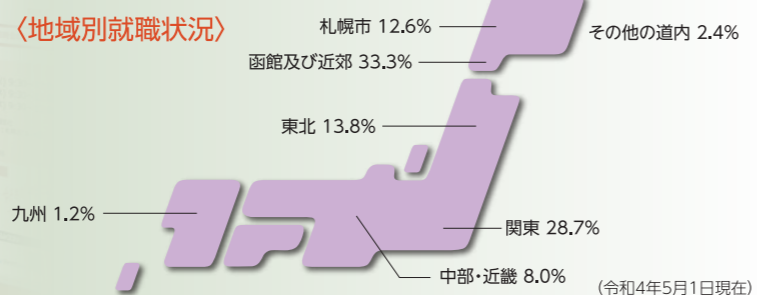
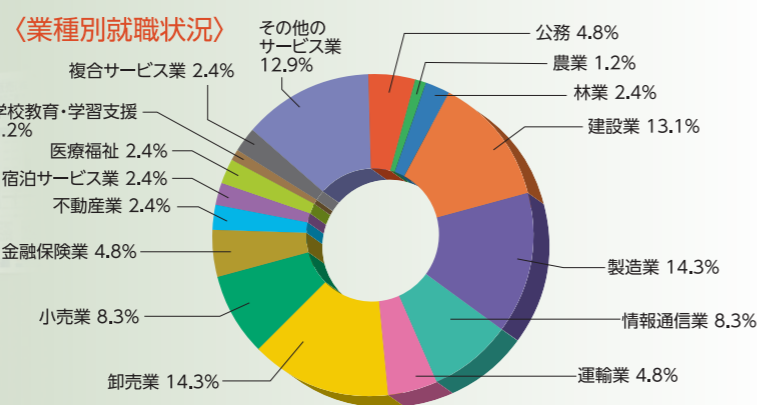
今後も、学生がより満足度の高い企業からの採用を得られるよう、教育課程内外を通じた質の高いキャリア支援を行っていきたいと思います。

就職部長
西村 淳 教授



就職実績 (2022年3月卒業者)

〈進路状況〉 就職希望者 96.7% (就職率96.7%)



がんばる社会人一年生

夢や目標を持ち、社会人一年生として新たな一歩を踏み出した先輩たち。新ステージで躍動しています。



イオン北海道株式会社
イオン上磯店 勤務

小岩 亮斗 さん
商学部商学科英語国際コース卒
(函館大学付属有斗高等学校出身)

コミュニケーションは
とても大事

大学時代からイオン湯川店でアルバイトをした経験を活かし、イオン北海道に入社して上磯店で農産(野菜と果物売り場)を担当しています。出勤は朝早いですが、楽しく働いています。小売業界は正社員よりパート・アルバイトさんが多い業界です。そこで社員として必要なのがコミュニケーション力。年上のパート・アルバイトの方に指示を出す時、しっかりコミュニケーションをとるのが4年間大学で過ごした私たちの役目です。長年そこで働き続けている先輩を尊敬しつつ、私たちの若くて新しい発想を上手く伝え、理解してもらうことが大事です。みなさんも積極的にいろんな人と触れ合い、話し合って成長していきましょう。その努力をしている人は、社会人となった時に仕事楽しくて辞めることもなく、信頼も得られやすくなると思います。



函館バス株式会社
本社 勤務

平 侑真 さん
商学部商学科市場創造コース卒
(函館大妻高等学校出身)

いつでもどこでも
メモが大切

私は今、函館バスの本社で総合職として働いています。バスの路線を把握したり、社会人としてのマナーや、人とのコミュニケーションなど覚えることがたくさんあり、まだまだ自分は未熟だなと思うこともあります。上司の方から「とにかく最初は何でも言われたことはメモした方がいい」と助言を受け、どこにいても必ずメモを取っています。あとからメモを見直した時に「こうしていけば失敗しない」とか、「次はこういうことを生かそう」など改善策を考えながら徐々に仕事にも慣れていくと思えます。もうひとつ、仕事に慣れていく方法として、分からないことは分かるようになるまで、人に聞くことも大事だと教わったので、少しでも私の話が後輩の皆さんの就職活動の助けになればいいと思います。頑張ってください、応援しています!

商学部商学科
英語国際コース4年
越後谷 美月さん
(松風塾高等学校出身)



業務体験によって
自分に合う
タイプに絞れた

私は3年次の8月に東横イン函館駅前朝市、翌年1月には平成館しおさい亭、2月には石川県の山代温泉にある旅館の瑠璃光・葉渡莉で、それぞれ1週間前後のインターンシップに参加しました。

宿泊業界への就職を希望していたため、ビジネスホテル、リゾートホテル、旅館の3タイプの宿泊施設で業務体験をしたのは、より業界への理解を深めるため。それぞれ客層や業務が異なり、実際に体験したことで自分に合ったタイプに絞り、就職活動を進められました。また、リゾートホテル、旅館では実際に宿泊体験もさせていただき、お客様目線で社員さんの接客や施設の設備を見てイメージを膨らませられたのも貴重な経験でした。インターンシップは実際に働く社員さんのリアルな声をたくさん聞けるため、自分の将来が想像しやすくなります。目指す業界がある程度決まっても、より自分に合った職種を見つけるためにインターンシップに参加することをお勧めします。

INTERNSHIP インターンシップ体験

私は、ゼミの先生から希望する業界に合った企業を紹介していただき、3年次の8月に地域密着型のプロモーション会社である株式会社エゾシノでインターンシップに参加しました。

インターンシップ中は、観光ニーズに関するデータの収集から企画の考案、客先でのプレゼンテーションまで任せていただき、試行錯誤を重ねた結果、実際に「道南・北東北群の縄文遺跡のスタンプラリー」を実現させることができました。また、インターンシップでの出会いがきっかけで、大学での活動やプロジェクトに対するアドバイスなどで現在も継続してご協力いただいています。

インターンシップは、自分の興味ある業界の業務に関わって業界理解を深めたり、自分の将来のイメージを掴んだりできる貴重な機会です。就職活動で困ったら、迷わずキャリア開発課や大学の先生の方々に積極的に相談し、インターンシップに行くことをお勧めします。

現在も協力が
継続するきっかけ
インターンシップでの
出会い

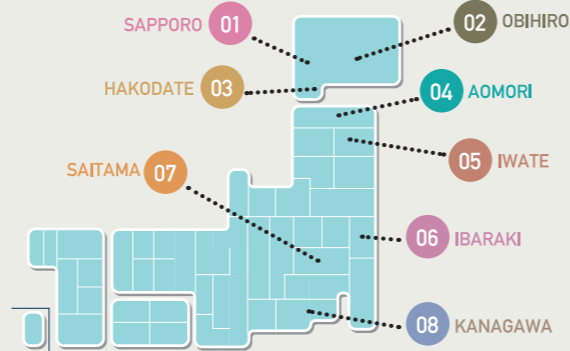


商学部商学科
市場創造コース4年
足沢 秋晴さん
(青森県立和田西高等学校出身)

出身校紹介

～出身校の思い出、大学での目標～

北から 南から



1 北海道札幌手稲高等学校

住所/北海道札幌市手稲区手稲前田497-2 TEL/011-683-3311

愛と力と夢にあふれた学校

校訓「継続は力なり」と学校教育目標「愛と力と夢よ あふれよ」に基づき、手稲高生には自分の夢や希望を具体的な目標とし、目標を達成するために努力を続けていく、というDNAが受け継がれている。

札幌手稲高校は、1年生のうちに英検準2級を取得する人がいたり、2年生ですでに進路を決めている人が多いなど、真面目な生徒が多いことが特徴と考える学校です。そんな印象がある一方、学校祭や旅行の行事ではコミュニケーションをとりながら楽しく活動していました。

その学校祭は、私の高校生活の中でもっとも記憶に残っています。1年生と3年生の時に開催できたのですが、私は1年生の時にはステージ発表、そして3年生の時には会計を担当。コロナ前は外部の方も入ることができましたが、3年生の時は学内だけでクラスごとにさまざまな作品を発表しました。少し寂しい気持ちがあった中でも、個性的な作品が多くて楽しかった思い出です。

函館大学は英語国際コース以外の学生も海外の方々と交流できる環境があります。そのチャンスを利用し、英語をビジネスでも使えるレベルまでスキルアップさせ、社会人として必要な資格やスキルもできる限り取得したいと思っています。

商学部商学科1年
日向 葵さん



2 帯広北高等学校

住所/北海道帯広市稲田町基線8-2 TEL/0155-47-0121

主体的に選択できる学習活動を展開

「綱領」として示されている「一、英知を磨き実践力を培う」「二、徳性を養い品格の向上に努める」「三、和を愛し健康な心身を錬成する」は、時代を超えて今も教育の精神として受け継がれている。

帯広北高校は生徒と先生との距離感が近く、生徒の目線から見ると友達のような感覚で接することができます。とても通いやすい学校という印象でした。

そんな高校生活の中で、私が打ち込んできたのは部活動。硬式野球部に所属し、甲子園出場を目指して部員、監督・コーチとともに一丸となって頑張ってきましたが、残念ながらその目標には届きませんでした。それでも、最後の最後まで諦めず、自分たちらしく戦えたことは思い出として胸に深く刻まれています。

高校野球で感じたその悔しさを、大学野球というレベルが上となる環境の中で晴らしたいと思い、函館大学に進学しました。私はこれまで、全国大会で戦うということを経験したことがありません。ですから、函館大学で自分の力を含め、チーム全員の力を合わせて全国大会に出場したい。それが達成できれば、自分がこの大学に来た意味がないという気持ちを強く持って、日々精進しながら野球に取り組んでいます。

商学部商学科
企業経営コース3年
森 寿蓮さん



3 函館白百合学園高等学校

住所/北海道函館市山の手2-6-3 TEL/0138-55-6682

愛の心を持って社会に奉仕貢献できる女性を育成

白百合学園はフランス系のミッションスクールであり、全国7カ所に姉妹校がある。校章に掲げる「白百合」の花は、理想の女性である聖母マリアを表し、また聖女ジャンヌダルクの旗印「勇気と希望のシンボル」でもある。

私が白百合高校で所属していたコースでは、幅広い進路に対応していたため、自分に合った進路が選択できます。とても印象的だったのは、月に数回あった土曜授業です。これは進路学習に加え、実践を通して社会人としてのマナーを学ぶ授業でした。

部活動も盛んなこの高校でストリングス部に所属していた私は、バイオリンを担当していました。何も分からずに始めたバイオリンでしたが、部員や音楽部と大会に向けて日々練習し、準グランプリを受賞。最初はあまりまとまりのなかった演奏に一体感が生まれ、仲間との絆が一層深まった貴重な体験になりました。

高校3年生の時に英検2級を取得したことがきっかけで、もっと英語を学びたいという思いが強くなり、英語を学ぶ環境が整っている函館大学に進学を決めました。さらに英語が話せるように努力し、TOEICでは高得点を目標にして一生懸命取り組んでいきたいです。

商学部商学科
英語国際コース1年
石栗 侑奈さん



4 青森県立青森北高等学校

住所/青森県青森市羽白字富田80-7 TEL/017-788-2893

学校創設以来、「文武両道」を実践

普通科とスポーツ科の2つの学科を設置。校訓の「自治」・「協和」・「日進」を教育方針の中核に据えて、社会の発展に寄与し得る、実践力に富んだ個性豊かな人間の育成を目指している。

青森県内各地から部活が目的で進学してくる生徒もいる青森北高校は、運動部はもちろん、文化部も優れた成績を残しています。そんな生徒の多くは学業面でもその力を発揮して、卒業後の進路希望を達成するために努力し、「文武両道」に励んでいるのが大きな特徴です。

私には、その高校生活の中でも印象に残っている先生がいます。その先生は日本史の授業を担当し、生徒に対してとても熱心な方でした。最初は先生に褒められたいと思って日本史の勉強に励んでいましたが、いつの間にか分かって「楽しい」と思えるようになっていったのです。そんな気持ちになって勉強自体を好きになれたのは、その先生のおかげです。

函館大学では常に挑戦し続ける姿勢で学生生活を送りたいと考えています。本学は規模が小さい分、チャンスもたくさん巡ってきます。自分に与えられたチャンスは無駄にせず、財産にできるように精一杯の取り組みをしていきたいです。

商学部商学科
企業経営コース2年
我満 奈々美さん



5 岩手県立福岡高等学校

住所/岩手県二戸市福岡字上平10 TEL/0195-23-1161

地域の期待に応えられる学校として努力

校是「文武両道・質実剛健」、教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間の育成」の下、学校教育及び地域との連携・協働を通して社会のリーダーを育成するために尽力している。

「挑戦する伝統校」である福岡高校では、生徒たちは部活と勉学の両立を目指し、応援歌練習や各種学校行事、そしてこの高校唯一の武道大会も行われています。私はインターハイにも出場している弓道部に所属し、部員同士だけでなく、大会などを通して他校の人たちとも仲を深め、切磋琢磨していました。その時間は私にとって貴重なものとなり、大きな経験値を積むことができた実感しています。

学業では台湾での研修旅行がもっとも印象に残っています。その頃、私は英語が苦手であり、相手と上手くコミュニケーションをとれるか不安でしたが、台湾の高校を訪れた際に、ゲームなどを通じてたくさんコミュニケーションをとることができました。そのおかげでもっと英語と向き合い、もう一度海外を訪れるまでに、より話せるようになりたいと思えたのです。

また、興味があった経営や広告を自主的に学んでいたため、函館大学ではさらに学びを深めていきたいと思っています。

商学部商学科
市場創造コース2年
林 克樹さん



6 岩瀬日本大学高等学校

住所/茨城県桜川市友部1739 TEL/0296-75-2242

日本大学の教育理念「自主創造」を体現できる生徒を育成

校是は「調和」「至誠」「自立」。生徒一人ひとりに寄り添い、個々の能力を伸長する教育活動を推進し、生徒のたくましい心と豊かな人間性を養い、社会に貢献する人材育成を教育方針に掲げる。

少人数制で授業が行われる岩日(岩瀬日本大学高校)は先生と生徒の距離感がとても近く、アットホームな雰囲気の中で勉強に励むことができます。岩日での高校生活の中で思い出に残っていることは、何と言っても3年間頑張った部活動です。私は硬式野球部に所属して甲子園出場を目指していました。仲間たちとその目標に向かい、時に悔しい思いや喜びを分かち合いながら、毎日練習に明け暮れていた3年間は、かけがえのない大切な時間でした。函館大学でも野球を続けていますが、高校以上にレベルの高い環境で野球に打ち込めています。新たな仲間たちと全国大会に向けて練習し、良い結果を残せるよう努力していきたいです。また、学業面では特に苦手意識のある科目に力を入れるとともに、商学実習などを通してさまざまな人と触れ合いながらコミュニケーション力を磨き、将来につなげていきたいと思っています。

商学部商学科1年
矢口 祐太郎さん



7 聖望学園高等学校

住所/埼玉県飯能市中山292 TEL/042-973-1500

世界で活躍できる人材育成に力を注ぐ

キリスト教に基づく「敬・愛・信・義」を掲げ、このモットーを学園生活の活動を通して実践し、温かな人格と骨太な人間力を養う。基礎学力に加え、問題解決に導くための知恵と強い信念を持つ人を育成している。

私は部活動が盛んな聖望学園高校で、プロ野球選手であった鳥谷敬選手を輩出し、甲子園に何度も出場している硬式野球部に所属していました。私自身は甲子園出場の目標を叶えられず悔しい思いをしましたが、心身ともに鍛えられ、仲間と共にひたむきにひとつのものに向かっていくことは、今後の人生で必ず役に立つと信じています。また授業面では生徒一人ひとりにiPadが貸与され、他校にはない充実した学習環境の中でより楽しく、効率的に学ぶことができました。学校祭も印象深く残っている思い出のひとつです。1、2年生の時は部活動の関係で参加できませんでしたが、3年生の時にはコロナ禍の影響でできる範囲に限られた中でもクラスメイトと団結し、とても楽しい学校祭をつくりあげることができ、高校生活でしか味わえない時間でした。部活動に理解がある聖望学園高校では文武両道ができていたと思います。函館大学でも文武両道を目標として大学生活を送ってきたいです。

商学部商学科1年
森 健太郎さん



8 神奈川県立厚木北高等学校

住所/神奈川県厚木市下荻野886 TEL/046-241-8001

緑豊かな台地で生き生き、伸び伸び

平成8年度に設置された「普通科スポーツ科学コース」を、平成29年度からは専門学科として「スポーツ科学科(体育に関する学科)」に改編。学年制高校としては県内唯一の普通科とスポーツ科学科を併設する学校。

厚木北高校は各部がたくさんの賞をもらって実績を残しており、とても部活動が盛んな学校でした。私は硬式野球部に所属し、もっと野球を続けたいと思って、野球が強い函館大学に進学したのです。もちろん、高校生活の一番の思い出は部活動です。高校3年間、毎日野球のことを考えて過ごしていたことは、振り返ってみても楽しい日々でした。この高校で出会った仲間たちと切磋琢磨し、お互いに刺激合った結果、自分たちの代では神奈川県ベスト4という最高の賞をもらうことができました。大学生活は早くも3年目に入り、来年には最高学年を迎えます。関東の神奈川県から北海道の函館市に来て、一生に一度しか出会えない大切な仲間にも巡り会うことができました。残りの時間は長いようで短いですが、今後ももっと友達を増やし、その友達や先生方とたくさんコミュニケーションをとりながら、最高の大学生活を送りたいと思っています。そして部活動でも仲間と一緒に最高の結果を残していきたいです。

商学部商学科
企業経営コース3年
前田 和輝さん



新任 教職員 紹介

今年度から函館大学に来られた教職員のみなさん。

新たな出会いの中で、学生たちとどのように触れ合っていくのでしょうか。



中村 和之教授
Kazuyuki Nakamura

学生と一緒に 成長できる教育者に

北海道釧路市出身の中村先生は、高等学校で社会科の教師を務めた後、函館高専に20年ほど勤務。教員という道を選んだのは、「担任の先生方がとても良い先生だったことと、好きな歴史の勉強を続けたかった」からなのだそうです。10年以上前から東洋史概論など、教職に関係する科目を担当していたことが本学との縁につながりました。函館大学では教職関係科目の社会・公民科教育法、倫理学、東洋史概論などを担当。「学生と一緒に学び、成長していける教師が理想」と話します。これまで中国や北東アジア、アイヌ民族の北方交易などを研究してきたそうですが、「自分の研究をまとめて形にし、世の中に問うてみたい」と、これからの目標を語ってくれました。



トーマス・ジョン・ニコラス
Thomas Jon Nicholas 専任講師

未来あふれる学生と しっかりと向き合って

大学では文化、犯罪、福祉、社会制度、モラル、教育心理など多様な学びをしてきたカナダ出身のトーマス先生。「学生時代に日本に興味を持ち、卒業後に日本へ来てからALTや企業の英語講師として勤務した後、大学教員の道へ進み、北海道観光に関わる仕事にも携わりました」。専門は「内容言語統合型学習」で、異文化コミュニケーションについての研究です。教員となったのは、より良い社会と世界をつくるため。英語スピーキングI~IV、英語実践演習III・IVのほか、異文化コミュニケーションの公開講座にも取り組み、「講義では実践的なスキルを工夫し、学生の未来のために一人ひとりとしっかりと向き合いたい」と、素敵な笑顔を見せてくれました。



鈴木 知花専任講師
Tomoka Suzuki

学生の多様性を活かした 授業を行いたい

大学教員だった父の姿に感化され、「自分自身も一つのことを深く掘り下げて研究することが好きだった」ことから、教員という職業を選んだ札幌市出身の鈴木先生。イギリスに留学した高校時代に向こうの教育制度に魅了され、イギリスの大学に進学したそうです。「主に政治学や国際関係学の分野を勉強し、帰国後は英語に関わる仕事に就いたのち、一橋大学の博士課程に進学しました」と話す鈴木先生は、「ケアの倫理」という思想を専門に研究しています。函館大学では政治学、国際法、専門ゼミナールIや商学実習I-IIなどを担当し、「学生の目線で物事を考えることを忘れず、授業やゼミナールの準備をしたい」と、教壇に向かいます。



中島 智子専任講師
Satoko Nakajima

日常生活で理論を 実践できる学生を育てたい

大阪市にある実家の家業を継ぎたいと思っていた中島先生。ところが、「大学生活の中でさまざまな刺激を受け、国際的な視野を持った人間になりたい」と、思いが変わりました。そんな中島先生は、経営学の人や組織に関する分野である人的資源管理、組織行動、経営組織が専門分野。「特に若年層に対するマネジメントに関心があります」。これは、大学職員として14年間キャリア支援業務に携わった中で芽生えてきたもので、働きながら博士(経営学)を取得するに至ったそうです。函館大学では経営学総論、経営管理論、経営組織論I-IIなどを教え、「学生が希望するキャリアを歩めるように尽力したい」と、熱く、優しい眼差しで学生を見つめています。



総務課
成田 唯乃さん
Yuino Narita

笑顔で充実した 学生生活のサポートを

函館大学総務課に所属する成田さんは、大学卒業後、信用金庫で総務課兼研修課で働いていました。前職で学生に向けた企業説明会等の採用担当として学生と向き合ううちに、「学生たちが魅力ある充実した“学生生活”を送れるようサポートしたい」と思い、函館大学に来たそうです。総務課では大学経理を担当し、「請求書や領収書の受け渡しを都度確認し、また、常に優先順位をつけることを心がけています」。アピールポイントは笑顔でのコミュニケーションです。「学生目線で悩みや不安を理解するだけでなく、信頼を得て親しみやすく、対応力もある社会人として接することができるようにしていきたいです」と、にこやかに微笑みながら抱負を語っていました。



CLUB TOPICS — 内外に函大の元気を発信します! —

KANDAI ing

自分を成長させてくれる
さまざまな学びと気づきがあるクラブ活動
目標に向かって部員それぞれが
情熱を持って活動しています



村田 湊斗 さん
商学部商学科市場創造コース4年
(函館大学付属有斗高等学校出身)

春原 廣陽 さん
商学部商学科市場創造コース4年
(高崎健康福祉大学高崎高等学校出身)



硬式野球部 BASEBALL

練習通りの力を発揮し、 全国大会出場を勝ち取る

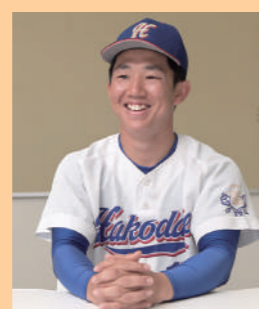
函大硬式野球部の目標は全国大会出場。「とにかく全国大会に出たいという気持ち一本。それを達成するために、各々が考えながら練習、試合に臨んでいます」と話すのは、キャプテンの春原さんです。そしてエースとして活躍する村田さんは、「みんなとても元気。先輩、後輩の垣根なく、試合になれば呼び捨てで言い合える仲です。私はピッチャーですが、後輩のキャッチャーは思ったことを言ってくれます」と、部の雰囲気を見せてくれました。



「小さい頃からプロ野球選手になることが夢。野球をしていない自分が想像つきません」と話す村田さん。

キャプテン、エースとしてチームを引っ張るふたりは、それぞれ大切にしていることがあるそうです。春原さんは「相手選手の傾向など、伝えたいことはすべて部員たちに伝えるようにしています。心の準備があればリラックスして試合に入ることができると思いますから」と、特にキャプテンを任されてからは試合前の準備を意識しているそう。それを聞いた村田さんは、「試合中、特に緊迫した場面で頼りになるキャプテンです。一人の選手としてもチームにいて安心させてくれる人。いてくれてありがとう」と、少し照れながら話してくれました。

個人の結果より、『チームのため』しか考えていないという村田さん。「例えミスがあっても、チームのために俺が抑えてやるという気持ちで投げています」と、マウンド上では弱気にならず、強気で押すピッチングがアピールポイントです。一方、左右どちらのピッチャーでも苦にしないスイッチヒッターの春原さんは、「バッターボックスに立ったら自分で状況判断し、ベストを導き出すように考え、臨機応変に対応するように心がけています」とのこと。すると、すかさず「キャプテンは体も頭も反射神経がいいんですよ」と村田さん。



「私は高校では控え選手でしたが、監督・コーチはみんなのスタートラインをゼロに見てくれます」と話す春原さん。

昨年、そして今年の春のリーグ戦は、普段通りにできれば勝った相手に対しても、ツメが甘くて負けた試合もあったそうですが、力があることは証明されました。この秋、ふたりは大学野球の総決算として、全国大会出場を勝ち取りにいけます。



函館大学硬式野球部HP
<https://kandai-bbc.jimdofree.com>



松木 天人 さん
商学部商学科1年
(旭川実業高等学校出身)

櫻橋 隼人 さん
商学部商学科1年
(八戸工業大学第一高等学校出身)

軟式庭球部 SOFT TENNIS

自分の武器を活かして、 チームに勢いをもたらす



高校の全国インターハイでは個人、団体ともに出場した櫻橋さん。しかし、思い通りの結果を出せずに終わってしまったと言います。「悔しい思いをしたので、それを大学で晴らしたいと思い、函

大に進学しました」。一方の松木さんは、中学時代の顧問の指導が心に残り、テニスを続けているそうです。「その先生がとても熱い方でした。強くなるためには人間性も大切で、同時に続けていくことの楽しさも教えてもらいました」と振り返ります。

函大の軟式庭球部は、みんながテニスを楽しんでいるという印象を受けたと話す櫻橋さんの一番の武器が左利きであること。「右利きとはプレースタイルが異なるので、相手にとってはやりづらいと思います」。さらに、持ち前の元気でチームに勢いをつけられるところもアピールしてくれました。そして、一人ひとりが課題や目標を持って取り組み、メリハリがあると感じている松木さんは、「雰囲気に飲まれず、冷静にプレーができるところがアピールポイントです」と、自己分析も冷静です。

「インカレで上位に入ることが目標」の櫻橋さんと、「後悔のない試合をするために練習していきたい」と話す松木さん。これからの活躍に期待が膨らみます。



「練習では集中力、帰ってからの反省点の振り返り、この継続を大事にしたい」と話す松木さん。(左)「どれだけ試合を意識した練習ができるのかが大事だと思っています」と話す櫻橋さん。(右)



函館大学軟式庭球部HP
<https://kandai-nantei.jimdofree.com>

鈴木 涼太 さん
商学部商学科市場創造コース3年
(北海道函館北高等学校出身)

澤田 蓮 さん
商学部商学科英語国際コース4年
(東奥学園高等学校出身)



太田 愛梨 さん
商学部商学科市場創造コース2年
(北海道函館商業高等学校出身)

軽音部 LIGHT MUSIC

音楽好き集まれ ゆる〜く音楽を楽しもう



自由に使える充実した設備のスタジオをバックに。

軽音部は音楽を心から楽しみたい仲間たちが集まるクラブ。「初心者もいれば経験者もいます。部員によって好きな音楽のジャンルもさまざまな中、「ゆる〜く」音楽を楽しんでいます」と雰囲気

を説明してくれたのは、アコースティックギターやエレキギターを演奏する部長の鈴木さんです。

キーボードやピアノを演奏する前部長の澤田さん、ボーカルとギターを担当する副部長の太田さんは、「小さい頃からずっと音楽と共に生きてきました」と声を揃えます。鈴木さんは「いろんなジャンルの音楽を聴くのが好き」、澤田さんは「好きなジャンルはジャズやブルース。アーティストでは山下達郎さんなどが好きです」、そして太田さんは「アーティストではロックバンドのMy Hair is Badが好きで、インディーズの頃から応援しています」と、まさに三者三様です。

新入生歓迎ライブや部内ライブなどを開催している軽音部で、一番大きなイベントが本学の大学祭です。「今年はそれに向け、各自バンドを組んで練習しています」と鈴木さん。澤田さんは「成長した姿をみんなに見せたい」、太田さんは「自分らしく大胆に歌いたい」と、胸躍らせながら練習に励んでいます。



世界へ羽ばたく! 国際交流



交換留学でハワイパシフィック大学へ

函館大学ではグローバルな人材育成を目指し、姉妹校提携の海外の大学への長期留学・交換留学制度のほか、語学研修の短期留学制度、海外プロジェクトへの参加など、学生の“学ぶ意欲”をバックアップしています。昨年の8月から12月にかけてハワイパシフィック大学で交換留学を体験したふたりの学生に、留学生活について語っていただきました。



最上 芽那英さん
（商学部商学科英語国際コース4年
青森県立鶴田高等学校出身）

メディア論、国際経営学の授業を受けました。また、現地の文化も学びたかったため、フラダンスの授業も取りました。そのなかでも、最も印象的だったのは旅行業界のマーケティングの授業です。あるホテルの協力のもと、グループワークでそのホテルのマーケティングプランを考案しました。ただ授業で学ぶだけではなく、実際にその知識を応用する機会があるのはとてもいい経験となりました。

留学で印象的だった出来事

グループワークでのメンバーとの打ち合わせにまつわる出来事は、今でも忘れられません。集合時間を決めていたにもかかわらず、最終的にメンバーが揃ったのは約束の時間から45分後でした。時間感覚の違いに驚きました。フラダンスの授業では、実技テストでいい成績が取れるように、みんなで一緒に練習をしました。みんなで同じ目標に向かって頑張れたことはいい思い出です。



グローバルに活躍するという目標を持って

1年次から、函館大学の海外研修制度を利用し、台湾でのサマーキャンプ・中国への研修旅行・フィリピンへの語学留学をしました。これらの海外経験を通し、将来はグローバルに活躍したいと思うようになりました。

そこで、語学だけではなく専門的な知識を身につけたいと思い、ハワイパシフィック大学への留学を決めました。ハワイは国際的な都市で世界各地から留学生が集まるため、視野を広げるいい機会になると思います。

実践的な授業は良い経験になりました

ハワイパシフィック大学では、興味のある授業を選択し学びました。ホテル&リゾートマネジメント、旅行業界のマーケティング、マス

留学の経験を社会で活かしていきたい

最初は周りがネイティブということもあり、どの人も自分よりも優れているように見えて少し気後れしているところがありました。ですが、授業でとんちんかんな発言をしたり、課題の連絡を見逃したりしている現地の学生を見て、どこの国の大学生もレベルがあまり変わらないことに気づきました。



石川 圭さん
（商学部商学科企業経営コース4年
北海道留萌高等学校出身）

大好きな会計学を英語で学びたい

私は会計学という学問が好きなのですが、単純に英語も好きなこともあり、大学に入ってから会計学はもちろん、英語にも真剣に取り組んできました。

中国研修、フィリピンへの短期留学を経験し、短期留学の時には日常会話が問題なくできたことに手応えを感じ、そこから英語を使って大好きな会計学を学びたいという気持ちが強くなり、ハワイパシフィック大学への交換留学生制度を利用しました。

積極性が身に付く授業のカタチ

向こうの大学で取りたかった授業は、もちろん会計学。ほかに太平洋周辺の言語学、マスメディア論と国際経営学も学んできました。もっとも印象に残っている授業は会計学ですが、例えば言語学の授業ではゲストスピーカーを招き、いろいろな人から話を聞いたことによって、楽しく授業を受けるこ



そこからは、積極的に発言したり、率先的にグループワークでまとめ役として活動したりすることができるようになりました。最終的に、成績優秀者になることができ、このことは大きな自信につながりました。現在、東証一部上場（現・東証プライム）のグローバル展開する専門商社から内定をいただいでいて、私の目標は海外駐在をするこ



とです。社会人になってからも、ハワイ留学で得た「異なる背景の人を束ね、一つの目標に向かっていける力」を活かしていきたいです。

とができました。授業はグループワークやプレゼンをする機会が多く、積極性が求められるという印象。アジアやヨーロッパなど、各地域から留学生が来ているため、多様性について考える良いきっかけにもなったと思います。住まいはコンドミニアムを借りていたため、食事は自炊していましたが、これも良い経験です。

異文化を学ぶ貴重な経験もできました

この留学では、日本に居てはなかったであろう友達との出会いも大きな財産になりました。特に仲良くなれたのが、アメリカ本土からの留学生。彼はメキシコにルーツがある人で、スペイン語がネイティブ。さらに英語や日本語も勉強していて、言語学に興味がある私にとっては、とても魅力的な人だったのです。彼と居酒屋へ行き、語り合ったのも忘れられない思い出です。言語は理解していても、根底にある文化や常識は国によって違います。そこから理解しなければ、本当の意味での英語を使ったコミュニケーションがとれているとは言えないことを、とても強く感じた留学生活でした。

チャンスを活かすための準備をしっかりと

留学前の私は、どちらかと言えば受動的な人間だったのです。留学前に函館大学で講義を受けていた時は、「先生の話を聞き、理解して終わり」ということも多かったと思います。しかし、この留学で積極性の大切さをより実感したことにより、積極的な人間になれたかなと思えるようになりました。

今、世の中はコロナ禍の影響で海外交流は停滞しています。しかし、海外での学びを考えている人は、チャンスが来た時にすぐ行けるよう、英語はもちろん、自分が興味のある分野の勉強をしっかりとっておくことをおすすめします。目的がなければ、大きな成果は望めません。いろんなことを考えるきっかけになると思いますから、興味がある人はどんどんトライしてほしいです。



学生の日頃の学びを地域のコミュニティに還元

地域連携センター長
佐藤 浩史 専任講師

函館大学地域連携センターは、地域に学術資源と人的資源を還元するための窓口を担っています。函館大学の教育目標としている知・情・意を持つ人材の養成にあるように、函館大学の学生が地域を志向し日頃の学びを地域のコミュニティに還元する。このことの実践が貢献であると自ら落とし込めるように、その機会を創出することが当センターの役割となっています。大学から地域へ、地域から大学へワンストップで実践躬行することを実現する。センターの役割をわかりやすくするため今年度は、窓口業務を一元化していきます。地域のニーズから課題を解決する。商学部らしくビジネスで地域活性化に貢献できるように地域の方々との対話を増やしていきたいと考えているところです。昨今の社会経済の影響で地域の課題がこれまでより多くなりつつある中で、観光、環境、コミュニティ、産業など貢献できる機会は少なくないと考えています。

2022函館大学教養講座・授業公開講座

公開講座

《前期》

- 第1回 6月18日(土) 10:00~12:00
「歌で学ぶ英語の発音」 講師:西前 明
- 第2回 7月9日(土) 10:00~12:00
「暮らしに役立つ数字の話」 講師:東川 和将

《後期》

- 第1回 10月8日(土) 10:00~12:00
「間宮林蔵が見た世界
一函館に残る林蔵関係の遺物」 講師:中村 和之
- 第2回 11月5日(土) 10:00~12:00
「耳と目と脳で聴く
Listening with your ears, eyes and brain」
講師:阿部 ジョスリン

授業公開講座

- 「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」 4月13日(水)~1月25日(水)
水曜9:00~10:30(全30回)
講師:片山 郁夫

令和3年度 学校法人野又学園 決算書

(単位:千円)

資金収入の部		資金支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,150,946	人件費支出	1,404,958
手数料収入	22,783	教育研究経費支出	588,781
寄付金収入	2,740	管理経費支出	144,876
補助金収入	858,902	借入金等利息支出	34
国庫補助金収入	268,336	借入金等返済支出	6,130
地方公共団体補助金収入	513,890	施設関係支出	31,803
施設型給付費収入	73,374	設備関係支出	31,492
その他の補助金収入	3,302	資産運用支出	849,027
資産売却収入	768,002	その他の支出	356,290
付随事業・収益事業収入	111,406	(予備費)	
受取利息・配当金収入	30,749	資金支出調整勘定	△75,909
雑収入	77,423	翌年度繰越支払資金	474,518
借入金等収入	0		
前受金収入	186,200		
その他の収入	417,485		
資金収入調整勘定	△279,327		
前年度繰越支払資金	464,691		
資金収入の部合計	3,812,000	資金支出の部合計	3,812,000

事業活動収支計算書		科目		金額			
教育活動の活動部	収入の部	学生生徒等納付金		1,150,946			
		手数料		22,783			
		寄付金		2,282			
		経常費等補助金		857,630			
		国庫補助金		267,064			
		地方公共団体補助金		513,890			
		施設型給付費		73,374			
		その他の補助金		3,302			
		付随事業収入		88,406			
		雑収入		79,438			
教育活動の活動部	支出の部	人件費		1,401,797			
		教育研究経費		838,628			
		管理経費		233,877			
		徴収不能額等		1,443			
		教育活動支出計		2,475,745			
		教育活動収支差額		△274,260			
		教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金		30,749	
				その他の教育活動外収入		23,000	
				教育活動外収入計		53,749	
				借入金等利息		34	
その他の教育活動外支出				0			
教育活動外支出計				34			
教育活動外収支差額				53,715			
経常収支差額				△220,545			
特別収支	収入の部			資産売却差額		62,773	
				その他の特別収入		2,291	
		特別収入計		65,064			
		特別収支	支出の部	資産処分差額		13	
				その他の特別支出		245	
				特別支出計		259	
				特別収支差額		64,805	
				予備費			
				基本金組入前当年度収支差額		△155,740	
				基本金組入額合計		△63,288	
当年度収支差額				△219,028			
前年度繰越収支差額				△2,670,878			
基本金取崩額				19,297			
翌年度繰越収支差額		△2,870,609					
(参考)							
事業活動収入計		2,320,298					
事業活動支出計		2,476,038					

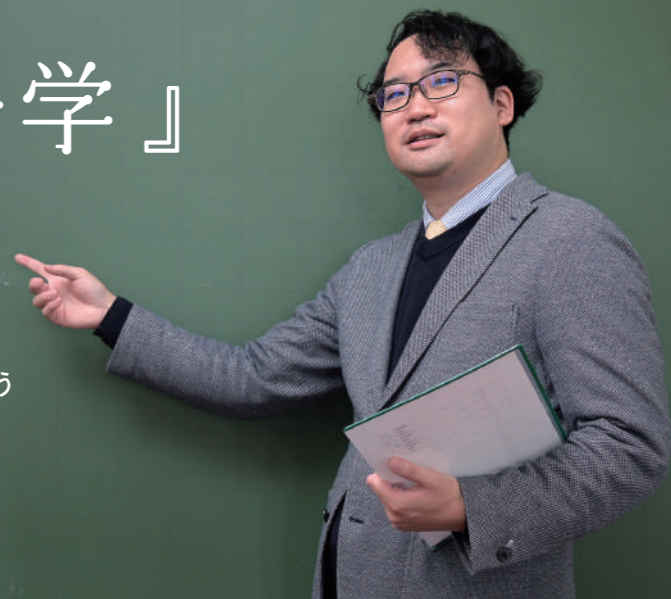
貸借対照表		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	14,172,181	固定負債	395,040
有形固定資産	9,393,061	流動負債	443,784
特定資産	3,753,891	負債の部合計	838,824
その他の固定資産	1,025,229	純資産の部	
流動資産	595,980	科目	金額
		基本金	16,799,946
		繰越収支差額	△2,870,609
		純資産の部合計	13,929,337
資産の部合計	14,768,161	負債及び純資産の部合計	14,768,161

授業アラカルト

『認知言語学』

阿武 尚人 准教授

函館大学で行われているさまざまな講義。幅広い領域でその成果が活用されているという「認知言語学」とは、どのような学問であり、どのようなことを身につけられるのか、ご紹介していきます。



認知言語学は、文部科学省の区分では「情報学」に属します。ソシユールによってその扉が開かれた近代言語学は、現在も数多の機関で研究が進められており、「脳科学」という意味ではほとんどの言語学分野が「認知」に関わると言っても過言ではありません。その中でも認知言語学は身体性に基盤を置き、「知覚・運動・社会文化」の3要素を通じた経験主義の立場をとることから、人工知能(AI)開発や失語症治療、そして言語教育に至るまで幅広い領域でその成果が活用されています。この授業では認知言語学の入門的な内容を扱い、経験主義の立場から様々な言語事例を考察します。例えば、「恋に落ちる」は英語ではfall in loveと表現されますが、なぜfallが使われるのでしょうか?これは「重力」に基づく人間の身体経験が生きており、まるで愛という空間の中に引っ張り込まれるように「抗えない」認識が反映されていると考えられます。このことがわかっていると、同様の「抗えない」という愛の側面は「磁石」の視座から表現されることにも合点がいきます。“I was magnetically drawn to her.”(磁石に引きつけられるかのように彼女に惹き付けられた)などがその一例です。また、「愛」の別の側面も知っていると、効果的に自身の気持ちを伝えやすくなります。「情熱」を伝えたい場合は「炎」を(例: burning love(燃え盛る愛))、あるいは「(進むことへの)障がい」を伝えたい場合は「旅」を(例: We're at a crossroads.(私たちは岐路に立っている))用いれば良いわけです。かたや、「抗えない」というfallの特徴に注目すると、たとえばfall victim to(～の犠牲になる)やfall asleep(眠りに落ちる)においてなぜfallが用いられるのか、その理由も容易に連想されることでしょう。このように、身体性の側面から言語事例を注意深く観察することによって、様々な言語表現を生み出すプロセスについて考察できるようになります。言語が有する様々な側面に触れ、自分が普段使うことばにもより一層の興味関心を持ってもらいたいと思います。

言語表現を生み出すプロセスを考察できるようになる

